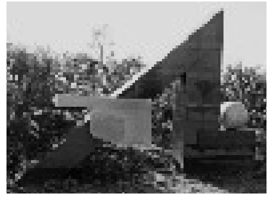
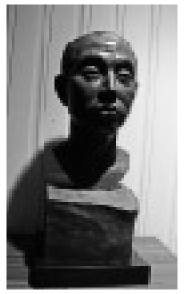
にかほ市の国際交流の歴史



1990ショウニー市・仁賀保町姉妹都市提携調印
1992カンタベリー博物館（ニュージーランド）・白瀬南極探検隊記念館姉妹館提携調印
1996アナコーテス市・象潟町姉妹都市提携調印
1997西施のふる里友好交流演奏訪中（仁賀保高校吹奏楽部訪中）
1999ショウニー市が日本庭園「姉妹都市平和庭園」を建設
2002諸暨市・象潟町友好都市提携調印
2007カンタベリー博物館へ白瀬中尉胸像を永久貸出
2008諸暨市・にかほ市友好都市提携再調印
2010ショウニー市・にかほ市
アナコーテス市・にかほ市
姉妹都市提携再調印



４つのモニュメント、像は各都市との交流の記念碑です

アナコーテス市からの訪問団

中学生11名、引率者3名のアナコーテス市訪問団は、7月29日から8月6日まで滞在。蚶満寺や仁賀保高原など、市内を駆け巡っただけでなく、日本文化に触れて体験しようとする、積極的な姿勢が見えました。日米中学生の意見交換でもアメリカがリード。自分の意見を自由に発するアナコーテスっ子に、にかほっ子は大いに刺激を受けたようです。

【国際交流から育まれるもの…】

訪問団長
ビバリー・ボウェン

にかほ市民の皆さん、こんにちは。私がにかほに来るのは今回が2回目ですが、手厚くもてなしていただき、とても感謝しています。訪問団のスケジュールもちょうど良く、にかほ滞在を楽しんでいます。

この相互交流について思うことですが、アメリカ人のこの世代、10代前半くらいの子どもたちは、とても自己中心的だと私には思えます。この交流は、そんな子どもたちが他の価値観、文化、習慣に目を向ける、いいきっかけになっています。規則正しい日本の習慣も学んでほしい。一方でアメリカの子どもたちは、自由に自分の意見を伝えることができるようです。

私は、ロシアやクロアチアなどの国々とも交流の経験があって、その度にさまざまな違いを感じます。日本では、はしで食事をとります。日本の皆さんには当たり前のことでしょうが、知らない人が初めて見たら、変なものだと感じるでしょう。それでもはしを使って自分も食事してみることで、そう思わなくなります。

国際交流で大切なことは、文化を学ぶこと。他人のことを、自分とは違う、変だ、と感じることがあっても、いずれそう感じなくなる。人生はそうしたことの連続でしょう。

そして続けていくこと。交流から育まれる友情。素晴らしいことですよね。

またお会いすることを楽しみにしています。アナコーテスもにかほに似た景色が広がる、いいところですよ。

（本特集用のインタビュー訳）

▲日米中学生「熱い」意見交換

中国・諸暨市への訪問団

◀中国で響き渡った「エッサッサ！」

▼日中バスケット対決
仲良く引き分け

◀本場の中華に舌つづみ

初めての青少年交流となる諸暨市への訪問団が（高校生8名、引率3名）8月5日に日本を出発し、7泊8日の行程で訪中し交流しました。

経済発展目覚ましく、歴史ある中国の活力と懐の深さに触れながら、親しむべきアジアの友だちとの交流は、高校生たちの大きな財産となったはずです。

芭蕉が句に詠んだ西施のふるさと・諸暨市との新たな交流がスタートしました。

西施殿とネムノキの前で

【諸暨市訪問と国際交流の今後】

訪問団長　三浦　彬

「にかほ市日中友好協会の新しい1ページが開かれた」そんな思いの1週間でした。

旧象潟町日中友好協会発足以来22年。念願だった青少年交流の第1回目としては大成功でした。同行した高校生たちの精一杯の交流ぶりには感動さえ覚えました。自分の高校時代に比べて、今の若者たちの物怖じしない態度、行動に、世代の違いを感じると共に、成熟しつつある、グローバル化しつつある日本社会に生きる若者たちの、良き一面を見た思いがしました。

高校生たちが今回の訪問で何を感じ、学んできたかは彼らの報告を待つとして、先進国に追いつけ追い越せと、急成長を続ける中国の熱気を、肌に感じてきたことは確かです。

▼高層ビルが建ち並ぶ光景～上海～

さて、訪問した諸暨市側の対応には頭が下がりました。初日の歓迎昼食会から、最終日の歓送晩餐会まで、びっしり組まれたプログラム。外事弁、教育局の担当職員、暨陽高校の職員、ホームステイ先のご家族には本当にお世話になりました。

来年は、諸暨市の高校生たちを迎える側になりますが、日中友好協会としては初めての取り組みになります。今回の交流に参加した中国側の高校生たちは皆、日本訪問を希望し、期待していました。ぜひ成功させたいものです。

にかほ市のように人口3万人未満の市町村で、3カ国4都市と青少年交流している所は、全国的にも珍しい。交流の機会を与えられている青少年たちは、非常に恵まれています。大いに活用してほしいものです。

国際交流の意義は、他国の文化に触れることにより、相対的に自国の文化、郷土の文化、ひいては自分自身の文化を、見つめ直す機会を得られる所にあります。自らの長所欠点を知ることは、より高い人格形成に極めて大事なことです。交流に参加する青少年たちは、体験を糧にひと回り大きな人間となって、にかほ市の、日本の将来に寄与する心を持ち続けてほしいものです。この機会を与えてくださった、にかほ市民の皆さんに、心から謝謝。

（本特集用に寄稿）